

1 研究主題

「教わる」から「学びとる」授業への改善をめざして
～外国語学習における対話的な学びを中心として～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

現代の子どもたちが活躍するであろう未来の社会は、AI技術の進歩やグローバル化等、変化の激しい世の中になることが予測されている。そのような社会を生きる子どもたちに必要となるのは、身の回りに起こる様々な問題に自ら向き合い、その解決に向けて多様な他者と協調しながら解決策を導き出していく力である。

一昨年度、全面実施された新しい学習指導要領において、授業改善の取組の一つとして挙げられているのが、「主体的・対話的で深い学び」の実現である。教師が「アクティブラーニング」の視点からの授業改善に取り組み、子どもたち一人一人の学びを確かにしていくことが求められている。

(2) 学校教育目標から

本校の学校教育目標である大きな3つの柱は、「自律…自ら考え判断し、主体的に行動する。」「尊重…違いを理解し、他者を尊重する。」「協働…他者と協力して課題を解決していく。」である。また、学校経営のテーマを「コミュニケーション」「協働」「対話」「Change（学び続けて変わる）」と掲げ、学校総体となって、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、授業づくりに取り組んでいる。教師が「教える」授業から、子ども自ら「学びとる」授業を目指し、子どもたちが自分事として課題を捉え、状況や立場が違う他者と協調しながら、納得解を見出していくという学び方は、学校教育目標の「自律」「尊重」「協働」の育成につながると考える。

(3) これまでの研究から

本校はこれまで、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、授業改善に取り組んできた。教師が「対話」とは何かを捉えなおし、「対話」を生み出し、「対話」を支えるための、ICTの効果的活用について考え、授業実践を重ねてきたことで、児童の対話的な学びが活性化し、児童の学びがより主体的なものへと変化してきた。その成果を生かしつつ、熊本市教育委員会から示されている「めあて」「対話（アウトプット）」「振り返り」の3つのポイントを踏まえながら、児童が「教わる」から「学びとる」授業へのさらなる改善を目指しているところである。

昨年度までにも、児童が自分の学びについて振り返る時間を大切にしてきた。しかし、振り返ったことを、新たな課題設定や次への学びにうまくつながっていないのではないか、という課題が見えてきた。そこで、今年度はこれまでの成果を踏まえながら、「振り返り」の充実を図り、メタ認知能力を高めていくことで、より高い目標を設定し、達成する力や、自らの学びを振り返り、自身の学びの問題解決能力を引き上げることができるようしていきたい。

3 研究テーマについて

(1) 主題について

授業改善の視点として示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現には、学習内容の一方的な教授ではなく、児童同士が様々な価値観を交流し合い自分の考えを深める活動を十分に取り入れる必要がある。また、授業者が児童に身につけさせたい力や指導事項を明確にもち、意図的に対話が生まれる場を設けることにより、質の高い学びが生まれることになるであろう。そして、児童が学んだことを自分の言葉で振り返り、自分の伸びや学んだことを認識できることが、学ぶ喜びにつながり、学習意欲を高めることへもつながると考える。新学習指導要領では、学習の基盤となる力として、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」の3つが示されていることを踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、熊本市教育委員会より、児童が「学びとる」授業への転換について示されている。本校においても、児童が主体的に課題に取り組み、自分の思いや考えを表現し、伝え合い学び合うような、「学びとる」授業をめざしていく。

(2) 副題について

新学習指導要領全面実施に伴い、5・6年生の教科としての「外国語科」も始まった。熊本市においても、これまでの2年間で、外国語専科の配置やALT配当の増加をはじめ、外国語科の授業づくりや評価の在り方についての様々な実践や研究などがなされてきた。しかしながら、熊本市全体としての広まりや深まりは、まだこれからである。児童が外国語学習をするにあたり、大切な要素となる「目的」「場面」「状況」を設定し、コミュニケーション活動を充実させ、さらに教師による支援や手立てを探ることで、外国語学習でいう対話的な学びが実現できると考える。このことは、本校のこれまでの「対話的な学び」の研究と通ずるものがある。また、令和5年度に、全国小学校英語教育実践研究会熊本大会が熊本市で開催されるにあたり、本校もサポート校という形で協力することになった。これをきっかけとして、本校でも全職員が外国語学習について理解を深めるとともに、指導力の向上を図ることができると考える。これらのことを踏まえ、今年度は外国語教育を中心にして、主体的・対話的な学びを深める子どもの姿をめざしていきたい。

(3) 具体的取組

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、熊本市教育委員会より「授業づくり3つのポイント」が示されている。児童主体の学びとなるよう、この3つのポイントを踏まえ授業改善に努める。

①授業改善

令和版「学びわくわく熊本市の授業づくり」
3つのポイント

②学習規律・学習訓練の徹底

・幼小中連携「くすのきスタンダード」「くすのきルール」の徹底

③家庭学習習慣の定着と内容の工夫

・保護者への啓発「家庭学習の手引き」（4月末に配布済）

④個に応じた指導 ドリルパークの活用

・「学びタイム」 … 計算、コミュニケーション、英語に加えて話の聞き方・伝え方

①めあて

②対話（アウトプット）

③振り返り

タイピングスキルアップ、情報モラル教育、ドリルパーク など

⑤教師の外国語指導スキルの向上

- ・Classroom Englishの活用
- ・コミュニケーション活動を成立させる「目的」「場面」「状況」の設定
- ・思考力・判断力・表現力を見取るための評価活動研究
- ・日常的な情報交換
- ・ミニ研修の実施 など

4 研究の内容

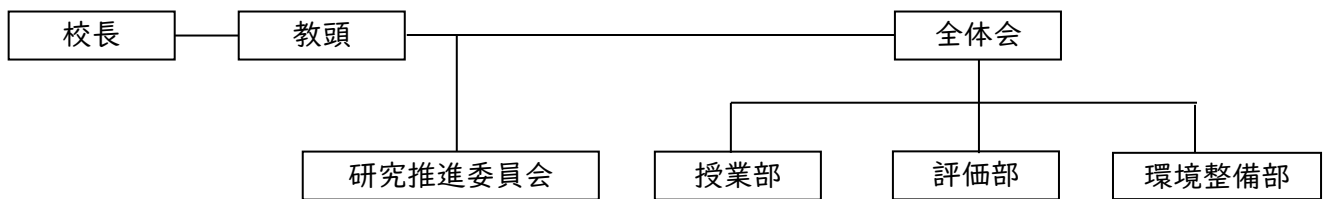
(1) めざす児童像

学習活動に主体的に参加し、友達の考えをしっかりと聞き、自分の考えを表現できる児童

(2) 研究の視点

- ①外国語学習における対話を中心とした授業づくり
- ②思考力・判断力・表現力を見取る評価活動
- ③新たな課題設定や次時の学びにつながる「振り返り」の充実

5 研究の組織



<研究推進委員会> 校長・教頭・教務・研究部・研究推進委員

- ① 校内研究の内容や方法の計画・立案
- ② 研修会・授業研究会を計画・運営
- ③ 研究資料の収集や提供、児童アンケートの集計・分析(学年)
- ④ 学びタイムの計画・運営

<授業部> 授業づくりについての研究

- ・児童の実態に合った単元構想や「目的」「場面」「状況」の設定
- ・対話を中心とした授業づくり など

<評価部> 学習評価についての研究

- ・ルーブリック評価
- ・振り返り など

<環境整備部> 学習環境の整備

- ・掲示物等の作成
- ・児童、教師の意識等の調査、研究 など